

会 議 録

1 会議名

令和元年度 第4回三郷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 令和元年度地域活動支援事業について（追加募集の審査・採択結果の報告）（公開）

(2) 自主的審議事項「三郷区の人口減少について」（公開）

(3) 自主的審議事項「三郷区における高齢者支援の取組について」（公開）

3 開催日時

令和元年9月26日（木） 午後6時25分から午後8時00分まで

4 開催場所

三郷地区公民館 集会室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・ 委 員：山口典夫（会長）、竹内浩行（副会長）、保坂裕子（副会長）、伊藤善一、
加藤与三郎、山田宏文、横尾彰平

・ 事務局：南部まちづくりセンター 堀川センター長、小林主任

8 発言の内容

【小林主任】

・ 池内委員、尾崎委員、佐藤委員、二野委員、保坂真由美委員を除く7人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・ 同条例第8条第1項の規定により、議長は山口会長が務めることを報告

【山口会長】

・ 会議の開会を宣言

・ 会議録の確認：横尾委員、伊藤委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

- ・資料により説明

【山口会長】

- ・事務局の説明について質疑を求めるがなし

一次第3報告（1）令和元年度地域活動支援事業について（追加募集の審査・採択結果の報告）―

【山口会長】

次第3報告（1）令和元年度地域活動支援事業について（追加募集の審査・採択結果の報告）に入る。

事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

- ・資料No.1により説明

【山口会長】

事務局の説明について質疑を求める。

【横尾委員】

審査を欠席したため内容が分からなかいのだが、「三郷タイフーン活動支援事業」に疑問を持った。本来ならば、個人の着るものであるため、個人が負担するのが普通ではないか。地域活動支援事業の趣旨は、三郷区全体に関わるものとなっていると思う。三郷タイフーンは、三郷区の人がほとんどいないという話も聞いている。物の購入が目的のような姿勢があり、違和感があった。そのため、私たちが採択をする時には、初心に戻り、三郷区全体のことを考えながらやるべきである。活動実績を積んだ中で、追加で補助をするならよいが、最初から全て補助金で、といった考え方ではいけない。だんだん「お金が余っているなら」という考え方になってきていると強く感じた。

【山口会長】

子どもが非常に少ない中で、三郷を冠して頑張っているという意見が委員から出

された。グラウンドコートについては、監督など指導する方の分はいかがなのかという意見が出た。しかし、他の地域でもそのようなものを揃えているということであり、子どもの寒さ対策ということもあるため、審査した結果採択となった。来年度については、新たな委員で決めてもらえたらよい。

【保坂副会長】

会長の説明に補足する。

三郷タイフーンには現在、三郷小学校の子どもたちが2人参加している。ユニホームは、子どもたちの体格がどんどん大きくなるため個人持ちにはせず、チームとして持っている。以前私の息子がいた頃に作ったもので、結構古くなっているという話もあった。監督は三郷の人がやっており、三郷の子どもたちがいないにもかかわらず三郷を冠しているということで、応援したいという委員の気持ちが結果に表れたと思う。

— 一次第4議題（1）自主的審議事項「三郷区の人口減少について」 —

【山口会長】

次第4議題（1）「自主的審議事項『三郷区の人口減少について』」に入る。

三郷区魅力マップ編集委員会について、経過と今後のことについて報告する。

第1回検討委員会は8月2日に開催し、顔合わせ程度で、今後の日程等を決めた。次回は10月25日（金）午後6時30分から三郷地区公民館で開催する。内容はまだ計画段階だが、マップの書式と内容などを協議したい。その事前協議を10月10日（木）の午後から、三郷地区公民館で開催する予定である。地域協議会で出される意見も、編集委員会に反映していきたい。また、公民館事業の方は、ある程度成果がまとまっているとのことである。それも参考に、よいものを作っていきたい。

- ・三郷区魅力マップ編集委員会の経過説明について質疑を求めるがなし。

委員研修について協議する。先日、当初より計画していた講師の吉田先生のところへ挨拶に伺い、日程調整等をした。その結果について、事務局に説明を求める。

【小林主任】

資料No.2により説明。

【山口会長】

- ・事務局の説明に質疑を求めるがなし。
- ・資料No.2のとおり研修を実施することを諮り、委員全員の下承を得る。

次に、講師から事前に示された、「作成するマップは、誰に何を伝えたいか。」について協議する。委員に意見を求める。

【竹内副会長】

外部の方はもちろんだが、まずは三郷区の住人の方によく見てもらう。自分たちの住んでいるエリアがどうなっているのかを把握していないと、外部の方々に話すことはできない。まずは三郷区の方々から理解してもらうために、三郷区の方々に見てほしい。それを踏まえて外部に発信する。「こんなところにこういうものがあるんだ。」というものを改めて見つけ出してほしい。そして、「ここにある神社は、本当はあそこにあった。」「この神社はその神社と兄弟なんだ。」というように、外部のものとのながりを見つけ、だんだん増えていくような形が理想である。そのような伝承みたいなものが掘り起こされればよい。そのため、外部の方ともつながりながら、まずは三郷区の方々が自分のエリアを見直すことができればよい。それが三郷区の魅力を向上させるための一つの活力になると思っている。

【保坂副会長】

三郷区の人たちが当たり前前に感じている、景色などいろいろなもののよさを再認識しなければ、外部に発信できないのではないかと考えているため、まず三郷区の人たちが見る。しかし、少し欲張りではあるが、外部の人たちも見て分かるような内容にする。非常に難しい問題だが、まず三郷区の人たちが再認識できるような内容。そしてそれを外部の人たちに分かってもらえるよう、形や言葉などを工夫して作っていったらよい。

【横尾委員】

私は、公民館事業の「元気の出るふるさと講座」でもマップづくりをしている。それはマップを作ることが最終目的ではなく、地域の方々が額を寄せ合いながらいろいろなことを掘り起こし、自分が知らなかった新しい発見をすることである。皆で力を合わせて作ることに意義がある。確かに三郷区のいろいろなよさを知らずに、

他の人に訴えることはできない。住んでいる方は、必ずその地域のよさを把握していると思う。ここに住んでいる私たちが誇りを持って、新しいものを発見して、そしてここを出て行った方にも大いに宣伝をして、改めて自分のふるさとのよさを感じてもらおうことが目的だと思っている。

【山田委員】

高士区地域協議会との意見交換で、各班に分かれた時に簡単なマップをもらったのだが、あのようなものを作れたらよい。それをするには、写真を撮らないといけない。最初は簡単なパンフレットみたいなものを作ってしてから、皆さんと「これを入れた方がよい。」とか「これはいらない。」など協議する。自分の住んでいる地区は「灯台下暗し」で、有名なものがあったとしても分からなかったりするため、簡単なマップを作って協議した方がよいのではないか。

【山口会長】

マップは誰に見てもらいたいのか。

【山田委員】

各地区の方に、簡単で分かりやすい内容で発信するのがよい。

【山口会長】

まずは三郷区内の方に見てもらいたいということか。

【山田委員】

そう。

【加藤委員】

まずは私たち委員が地域のよさを全体的に把握し、その後に地域の方々に知ってもらう。それから、市の掲示板などでPRすればよい。

【伊藤委員】

大体皆さんと意見は同じだが、まず三郷区内の人に見てもらい、「三郷区はこういうところだ。」ということを理解してもらった後に、外部の方、できれば若い方に見てもらいたい。魅力をもっと伝えられたら、「ここに住んでみたい。」となり、人口減少が食い止められるかと思う。

【山口会長】

恥ずかしい話だが、私自身が三郷区内のことをよく知らない。そのため、まずは

三郷区の皆さんから三郷区のよさを知ってもらい、そこから、若い方も含めて外部にPRをして、「三郷区はこういうところ」ということを知ってもらう。それが将来的に、交流人口等も含めた人口増につながり、三郷区が活気づいてくればよい。

- ・出された意見を資料にまとめ、委員研修の参考資料として参加者に配布することを諮り、委員全員の了承を得る。

【堀川センター長】

講師のところに伺った時に、講師から、「一覧表に並べたようなマップだと、何を伝えたいのか分からない、ありきたりなものになってしまうため、伝えたいテーマを持っていた方がよい。」というアドバイスがあった。講師の先生は今、直江津のまちづくりの関係の仕事をしていて、「直江津てくてくマップ」というものを作成した。それは水族館を核に、駅から水族館に行く間にこのようなところがある、という観光者向けのものである。当然地区の人によいところ知ってもらうためのマップを一種類作って終わりではなく、何種類も作ってもよいと思う。まずベースとなるものを作り、そこから派生して、外部の人から来てもらうための内容を盛り込んだマップを作ることも考えられる。また、三郷区外の場所も紹介して、ここから近くに病院があるといった情報も盛り込んでもよい。地域の中に限らず、いろいろなところに目を向けて考えてみてはどうか。そのことは講師講話の中で話があると思うため、先生のアイデアを聞いた後で、じっくり考えて決めてればよい。一つに絞るのではなく、いろいろな方向に向かって発信するという視点を持って講話を聞いてほしい。

【山口会長】

それも参考にしながら、委員研修に臨んでほしい。

続いて、今後の自主的審議の進め方について協議する。現委員の任期は来年4月29日までであり、残り半年程度になった。自主的審議事項については、任期中に一定の区切りを付ける必要がある。そこで本日は、これまでの自主的審議の取組を振り返りながら、当初の目標と比較してどの程度達成できたのか、達成されていない場合は任期終了までにどこまで取り組むべきか、協議する。

2つの自主的審議のうち、まずは「三郷区の人口減少について」を協議する。

資料No.3について、事務局に説明を求める。

【小林主任】

・資料No.3の「三郷区の人口減少について」を説明

【山口会長】

委員に意見を求める。

【伊藤委員】

人口減少については今、魅力マップ等の作成に来ているため、一応の成果が上がっているのではないかと。

【山口会長】

具体的な達成度はどれか。

【伊藤委員】

空き家については、まだ確実な成果にはなっていないため、「一部達成」になると思う。マップ作りについては、このまま続けて進めればよい。空き家については、協議はしたが、個人情報の問題があるため、成果を出せたらよいとは思いますが、なかなか進展は難しいと思う。

【加藤委員】

人口減少は、議題が大きすぎてまとまらないと思う。入ってくるのを待っていても仕方ないため、どうしたら三郷区の活性化につながるかを考えた方が、今後よい方向に進むのではないかと。ここで人口減少について話し合っているだけでは、いつ成果が出るか分からない。それよりも、現在住んでいる人たちで、三郷区をよりよい地区にする取組をした方がよいのではないかと。

【山田委員】

人口減少については、いろいろと幅が広いと、どうしたらよいか分からない。今、若い人と年寄り、昔みたいに1家族で住んでおらず、若い人たちはアパートや個々に家を作り、皆出て行って、別々に住んでいる。これは時代の流れといえは仕方ないが、残った親は皆高齢になり、だんだんと減少してくる。それが空き家の増加とも関係あると思っている。それをどうしたらよいか分からない。

【山口会長】

今後の地域協議会の進め方としては、どうすればよいか。

【山田委員】

このままではいけないと思うが、どのような対策をとるべきか分からない。

【横尾委員】

人口減少については、素直に認めざるを得ない現象だが、今は手づくりマップ等で三郷区のよさをPRするという目標もある。それと並行して、市へ空き家の登録をしてもらうよう促すとともに、空き家に入った方に対する市からの助成を勉強した上で、三郷区に移住したいという情報が入ったら斡旋する、ということも方法の一つである。地域だけで人口減少に対してもがいてもどうにもならないため、行政の助成等も勉強しながら進めていくのがよい。空き家バンクに登録したいという方がいたら、アドバイスして市につないであげるというのも一つの方法ではないか。ここで騒いでも急に回復する問題ではないが、それでも少しでも進むようにするのがよいのではないか。

【山口会長】

今後の方向はどのようにしたらよいか。

【横尾委員】

無理やり人を連れてきて空き家に住ませるような強引な手段は取れないため、魅力マップを通して地域の方が自分の地域のよさを把握しながら、行政等の助成も勉強し、我々の見識を深める。若い人に「子どもを産め」とは言えないため、じっくり腰を据えながら取り組むべきだと思う。

【保坂副会長】

地域協議会としては、人口減少について自主的審議事項に取り上げ、地域の課題を明らかにし、何ができるのかを考え、勉強をしたり、他地域との交流を深めたりしてきた。11月5日には研修をする。すごく大きな問題だが、私たちなりにできることを、歩みとすればゆっくりだが、それでも着実にやってきたのではないか。私としては、達成に近い「一部達成」である。

【竹内副会長】

当初は、皆さんと議論をしても出口が見えないため、大きなことに足を踏み込んでしまったと感じていたが、資料No.3を見ると、地域協議会としてこれだけの成果が出ていると思っている。統計データを見て、三郷の5年後はこうなる、1年に5人をプラスしていかないといけないといった話を聞いた上で、転入者との懇談会を

して、他の地区との意見交換もやりながら、空き地等の調査をしてきたということで、やはり成果は確実に出てきていると思う。その集大成として、地域の魅力づくりの研修をする。魅力マップを我々がどう活用していくかというのも講師から伝授してもらい、地域に反映されていく。私的には、「達成」に近い。達成感は感じていないが、ここまで微力ながらやってきたと思っている。

今後の方向性や進め方としては、魅力マップの作成と発信について議論していけばよい。人口減少について議論している組織があるということに意義があると思う。どこかの組織で人口減少を取り上げ、継がれていけば、ずっと進んでいける。小さなことでもアイデアが生まれてきて、結果も出てくるのではないかと考えているため、今後も人口減少について考える人たちが集まりながら動くということが一番大事かと思う。

【山口会長】

今後の方向性や進め方については、竹内副会長のとおりに考える。

私も、このテーマを取り上げた時は、自主的審議事項としては難しいと感じていた。しかし、転入された方との座談会等を行い、マップの作成も進んでいるため、実績は上がってきているのではないかと感じている。評価は、私も「一部達成」の上の方になるかと思う。名案があればよいが、これは国家的な懸案で、三郷区だけの問題ではない。自主的審議での取組は、次期委員の参考資料になる程度でよいと当初から話していた。今後の方向性については、11月5日に講師から話を聞いた上で検討するのがよいと思う。次期委員でも引き続き話をしてもらえばよいが、マップができた段階で審議を終結したいと考えている。

【竹内副会長】

11月5日の研修の講師には、自主的審議の経過は説明してあるのか。

【小林主任】

講師には概略を伝えてあるため、それを理解してもらった上で研修に臨んでいたといえるものと考えている。

【竹内副会長】

我々が調査した三郷区の魅力をまとめた資料は、講師に渡してあるのか。

【小林主任】

渡してある。

【山口会長】

当日吉田先生は、フリーハンドの中で話す部分もあろうかと思う。吉田先生はいろいろな研修会で話をしている。直江津地区のほか、上越市全体のことも見ているため、いろいろな角度から話が聞けると思う。

- ・今後の方向性や進め方については、11月5日の委員研修の結果をもとに改めて協議することを諮り、委員全員の了承を得る。

一次第4議題（2）自主的審議事項「三郷区における高齢者支援の取組について」一

【山口会長】

次第4議題（2）自主的審議事項「三郷区における高齢者支援の取組について」に入る。

このテーマについては、平成28年から29年にかけて協議を行ってきた。このテーマについても一定の区切りを付ける必要があることから、まず、これまで取り組んできたことを振り返る。

資料No.3について、事務局に説明を求める。

【小林主任】

- ・資料No.3の「三郷区における高齢者支援の取組について」を説明

【山口会長】

- ・「三郷区における高齢者支援の取組について」のうち「地域支え合い事業の受託」は達成でよいかを諮り、委員全員の了承を得る。

「地域支え合い事業以外の高齢者支援の取組」について、資料No.3の「1 イベント実施する」から「5 その他」のテーマごとに挙げられた意見を確認していく。

「1 イベント実施する」について、まず私から話をする。達成度については、「その他」、「未達成」、「一部達成」のいずれかだと思う。今年度の地域活動支援事業で、プロジェクター等の設備を三郷まちづくり振興会で購入した。これにより、町内の集会所での開催について環境整備されたのではないかと。「カラオケ機材をレンタルする」については、公民館を利用して夜間等に有志が集まってやっていると

聞いている。それがどんどん広がっていけばよい。

これも踏まえ、委員に意見を求める。

【竹内副会長】

「1 イベントを実施する」の解決方法については、山口会長のとおり、三郷まちづくり振興会によるプロジェクター等の購入がなされた。先日、各町内への貸出しについて説明会があった。うちの町内でも、今後それを借りて町内会でDVD映画鑑賞しようという話も挙がっている。すでに利用している町内もあるとのことであるため、「達成」になると思う。今後の方向性も、現在進行形で進んでいるため、もうよいのではないかと思っている。

【伊藤委員】

プロジェクター等のレンタルについては聞いていないが、そのような動きがあるとのことであるため、「達成」か「一部達成」でよい。

【加藤委員】

その前に、組織化がまだできていない。「地域支え合い事業」は順調にやっているが、その他についてはまだ全然できていないのではないか。前日の総会でも一部の人から意見が出たが、組織が稼動していないため、うまく答えられなかった。そのようなことを確実にしてから、このようなイベント等を考えた方がよい。というのは、地域協議会は、協議はできるが動くことはできない。そうすると、別の組織に話してやってもらうようにしないと、実現しない。そのため、まずは組織化をきちんとするべきである。議論はずっとしているが、先に進んでいない。達成できないと思う。

【山口会長】

三郷まちづくり振興会は現在、「地域支え合い事業」を核にして、65歳以上を対象にサロンを行っているが、次は、年齢を制限しない、あるいは出前的なサロンをやりながら三郷地区公民館に来られない方にも広げていければよいという話を進めている。そのため、地域の核となる組織は三郷区まちづくり振興会になろうかと思っている。出前サロンについては、三役会や理事会等でこれから話し合っていく。

【山田委員】

カラオケを町内に持ってくることについて、うちの町内にはまだない。また、レ

ンタルについても、各町内に配達や設置する人が大変である。それをできる人がいるかどうかという問題がある。そして、その参加者。雨が降った時に、「今日は雨降っているから行かない。」という人もいるかと思う。カラオケは好きな人が参加されると思うが、今、うちの町内はカラオケの機材がないので、他の町内に行くことになる。行きたいと思っても雨が降っている時は、送迎してくれる人がいれば参加できるのではないかと。やはり難しいのではないかと。思う。

【横尾委員】

「1 イベントを実施する」については「未達成」だと思う。実施するという文書を見たこともない。ほとんどゼロに近いのではないかと。

【保坂副会長】

「イベントを実施する」というのは難しい問題だが、例えば町内で何ができるか考えると、親睦を深めるためにいろいろとやっている。藪野町内では、「以前やっていたお茶飲みをまたやりたい。」という声を聞いたので、情報収集をして意向を諮り、連絡調整をして、この程度なら無理なくできるという規模で立ち上げたということもある。三郷まちづくり振興会で何かやるということのも一つだが、自分たちの町内、あるいは隣近所で、高齢者支援に向けてできることをできる範囲の中でやっていく。そのためには、常にいろいろな人と関わり合いながら情報収集していくことが大事であるため、三郷地区全体で見れば「一部達成」ではないか。プロジェクター等を購入したため、それを活用して活動がどんどん広がっていくのではないかと。

【山口会長】

三郷夏祭り等もやっているのだから、それも一つの参考になると思う。達成度については、「一部達成」、「未達成」と意見が出たが、全部はできないと思う。他のテーマもあるため、次に進みたい。

「2 畑や料理などを楽しむ」について、委員に意見を求める。

【横尾委員】

三郷区は農村地帯であり、各家庭でやっていることで精一杯だと思う。もしやるとしたら、趣味でしている人や、何もやったことがない人が対象だと思う。それ以外の方は、自分のところで手いっぱい。農業をしている人が高齢化しているため、三郷区では無理な取組ではないかと。

【伊藤委員】

「2 畑や料理を楽しむ」は、大きく考えるとなかなか難しいが、「子どもたちとの交流」については、ENJOY35で料理を作っている。また、野菜作りについては、今も小学校で畑や稲作づくり等をしており、高齢者の方の支援を受けながらやっているとのことである。うまくやっているところもあると思うため、継続してもらいたい。「達成」、「未達成」を判断する状態ではないと思うため、これを継続していけば、いろいろ発展があると思う。

【保坂副会長】

小学校やENJOY35での活動も考えると、達成度は「その他」で、今後の活動に期待となる。高齢者と関わる活動を考えると、今学校や地域の中でやっている活動は、高齢者との関わりが結構ある。「おじいちゃん、おばあちゃんからいろいろ教えてもらい子どもたちも喜んでいきます。」といったことが時々おたよりに書いてある。とても大事な活動の一つだと思うため、今後は意識して取り組んでいく必要があると思っている。

【山口会長】

「3 サービスを提供する」について、意見に意見を求める。

【竹内副会長】

三郷まちづくり振興会の設立を検討していた時に、市から車の購入の補助が出るとの話があったが、車の購入はしなかった。それは振興会が立ち上がったばかりの時に、今後の維持管理や手当等の費用面の関係があったためである。後々振興会が車を保有した時に、牧区でやっているような買い物ツアーなど、いろいろな形で反映されていくのではないか。今後の振興会の動向を見ながら、考えていけばよい。

【山口会長】

私も振興会の立ち上げに関わった。車の購入に関しては、検討テーマに上がったが、車の維持管理など、将来を考えると非常に不安があったため、振興会の立ち上げの時には手を挙げなかった。しかしながら、サービスを提供するとなると移動手段も必要になるため、何ができるかは今後のテーマとなる。受けてもらえるかどうかは別にして、取組の母体は振興会がよいと思う。このような案もあると提案していければと思っている。今後、各委員の意見を聞き、よりよい方向があれば協議し

て、振興会等に提案すればよいと思っている。

【横尾委員】

高齢者でも、家族に若い人がいれば車に乗せてもらい買い物ができるため、対象となる方は、車がなく、自分でも運転できない、高齢者のみの家庭の方だと思う。そのため、このテーマは非常に問題が大きい。用を頼む側の制約もあるし、違うものを買ってきたため、いざこざになったと聞いたこともある。頼む方も頼まれる方も制約を受ける非常に難しい問題であるため、すぐに振興会に提案する段階ではないのではないか。市から助成をもらって車を買ったらすぐにできるという簡単な問題ではない。

【山口会長】

「3 サービスを提供する」については、今後の課題としたい。

「4 農家の高齢化」については、「大規模化、法人・公社化」とあるが、三郷区では進んできていると感じている。今池でも法人化が進みつつあるため、これからだんだん広がっていくものと思っている。そのため、このテーマは達成しつつあると思っている。

【竹内副会長】

三郷区の農業に関してだが、今池で45ヘクタールの圃場整備工事が今年から始まった。一次工事が始まり、来年二次工事まで行くと思う。法人を設立して農業をしていくとの方向であり、ある程度は補助の中で対応できるため、何とかなるかと思っている。それ以外の三郷区の約200ヘクタールについては、4年後に面工事ができるような手筈を整えるよう動いている状況。毎月1回ぐらいずつ三郷地区圃場整備推進協議会を開き、私も役を仰せつかって今動いているところである。200ヘクタールの中で農業する人が、プログラム上は14人を想定している。そのプログラムの中で、国、県、市の補助をもらいながら圃場整備をやっていくということで動いている。長者原町内でも最近法人を立ち上げた。そのため、「大規模化、法人化・公社化」は、将来的に達成されると思っている、今後の三郷区の農業の未来は開けつつあるのではないかと思っている。

【山口会長】

耕作者として、山田委員に意見を求める。

【山田委員】

私は今池町内から隣の桜町に越してきたが、田んぼと畑は今もやっている。農家も高齢化になってきて、圃場整備をやっている最中である。将来的には担い手がいなくなってしまうため、恐らく法人化されると思う。その準備段階で、現在その方向に進められるような圃場整備をしている。我々の時代は今までどおりでも何とかなっていたが、私の子どもの時代では難しい。私の子どもは、「農業は関係ない。」「自分は田んぼなんてしないから、法人化しないで売っちゃえばよかったのに。」というようなことを言っているくらいである。今池町内も含め、三郷区のほとんど全部が法人化されるのではないか。

【山口会長】

農家の高齢化に付随して、後継者問題も大きなテーマになってくる。これは地域協議会ではどうすることもできない。今池町内が最初だが、三郷区で代行化、法人化に向けて動いているということは、高齢化の対策になるかと思う。

「5 その他」についてはどうか。これもどこで運営するかが一つの大きなテーマになると思う。これは「未達成」だと思うし、どこで運営するかを今後詰めなければいけないかと思う。委員に意見を求める。

【横尾委員】

運転免許を返納した人で家族が車を持っていない人については、市からタクシー代とバス代の補助が出るが、これも地域の大きな問題として出てくると思う。これは、地域で検討するには大きすぎる問題ではないか。バスをきめ細かに回してもらえたら、高齢者でも動ける人は自分でバスに乗ることができるが、腰が痛くて動けなくなる人がだんだん増えてくるため、バスにも乗れない人の援助をどうしていくかというのは、大きな問題になる。今後の課題でよいのではないか。

【山口会長】

- ・次回以降の会議では、各委員の意見を踏まえ、今後の方向性や進め方について協議することを諮り、委員全員の了承を得る

【山口会長】

次第5「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

- ・今後の日程

第5回地域協議会 10月17日（木）午後6時30分～ 三郷地区公民館

内容：公の施設の使用料改定について（報告）

令和元年度地域活動支援事業（三次募集の審査・採択）

委員研修 11月5日（火）午後6時30分～ 三郷地区公民館

- ・当日配布資料

令和元年度地域活動支援事業（三郷区）主な行事等予定表 [9月末～12月]

平成30年度地域活動支援事業事例集

柿崎区地域協議会意見書（写）

創造行政研究所ニュースレター「創造行政」

ウィズじょうえつからのおたより

【山口会長】

9月15日発行の三郷区地域協議だよりについて、地域活動支援事業の記事の取材のために、センター長、小林主任から現地を見に来てもらった。各委員も、非常に忙しいとは思いますが、できるだけ団体の活動内容を自分の目で見てほしい。

- ・事務局の説明について質疑を求めるがなし
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課

南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831（直通）

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。